

概要

■Coinhiveとは

- ページ閲覧者のCPUを動かし、仮想通貨「Monero」のマイニングを行うツール。

■マイニングとは

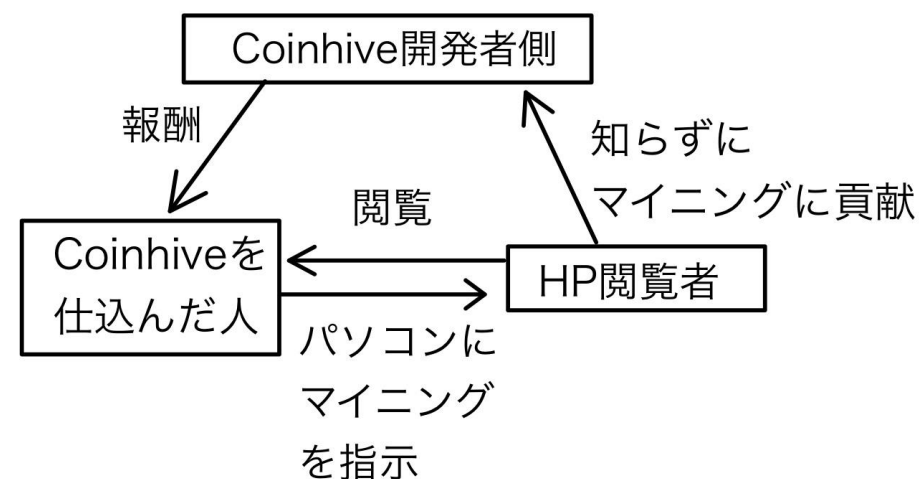
- 仮想通貨の取引承認に必要な複雑な計算作業に協力し、その報酬として仮想通貨を得ること。

■Coinhiveの問題点

- Coinhiveは「不正指令電磁的記録」に当たる可能性がある。

■Coinhive設置サイトの摘発

- 警察がマイニング参加を明示していなかったウェブサイト運営者を21人検挙。
- 検挙されたウェブサイト運営者の一人であるモロ氏が裁判を起こす。



モロ氏の裁判

不正指令電磁的記録の定義

人が電子計算機を使用するに際してその意図に沿うべき動作をさせず、又はその意図に反する動作をさせるべき不正な指令を与える電磁的記録。

■裁判の争点

- Coinhiveが「不正指令電磁的記録」にあたるか。
→「反意図性」と「不正性」があるかどうか。

■モロ氏側の主張

- 「ユーザーが知らない=意図しない」と解釈するのはおかしい。(反意図性の否定)
- コンピュータの破壊や情報流出されるわけではなくリソース消費も少ない。(不正性の否定)

■第1審：無罪

- 反意図性は肯定されたが、Coinhiveが不正な指令を与えるプログラムだと判断するには「合理的な疑いが残る」とし、不正性が否定される。

■第2審：有罪

- 「プログラムに対する信頼保護という観点から社会的に許容すべき点は見当たらない」とし、一転して不正性が肯定される。

現状と課題

■現状

- モロ氏は上告準備中。
- Coinhiveは「Monero」の価格暴落によりサービス終了。
- 警察では、サイバーパトロールの実施等により、マイニングツールが設置されているウェブサイトを確認。
- マイニングツールを設置していることを閲覧者に対して明示せずにマイニングツールを設置した場合、犯罪になる可能性がある。

■課題

- 「不正指令電磁的記録」を定義する条文が曖昧。
- 処罰が捜査機関のさじ加減ひとつに委ねられる危険がある。